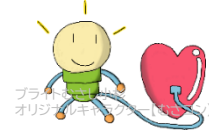


桜の歴史



春本番になり、桜がみごろになる季節のイベントと言えばお花見ですね。しかし、奈良時代には桜より梅が人気でした。万葉集では、桜を詠んだ歌は43首に対し、梅を詠んだ歌は110首。ですが、人々が桜に興味がなかったわけではありません。桜が咲くことは「神様が山から下りてきた証」と考えられ、お酒や食べ物をお供えしていたとされています。

江戸末期になるとソメイヨシノという新しい品種が作られ、現代では8割を占めています。寿命が短く、およそ60年といわれています。全国のソメイヨシノは戦前に植えられたもので、多くが寿命を迎えているため植え替えが急務となっています。桜や花見の歴史は他にもあり、それを知る事で今年の桜を2倍も3倍も楽しめるのではないのでしょうか。

商店街でMV撮影！

イダイモールで3月12日、川崎市を拠点に歌やダンスを披露する集団「しるこもるげん」のミュージックビデオ撮影が行われ、ブライトも参加しました。オリジナル楽曲「明日へのサーカス」は前向きで明るい曲という印象で、その曲に合わせて振付を教えてもらいました。

最初は難しいダンスの振付に戸惑いながらも、メンバーの方々が優しく教えてくださったので楽しい雰囲気での撮影が進みました。撮影した動画は4月中旬に公開されるそうです。とても楽しみです！



就活
One Point

書類選考のポイント③

前号の続きとしてオープン求人に応募する場合の【障がい説明書】についてご紹介します。

企業視点に立ったときに求められるのは『現在就労できる状態であるか』ということです(※必要な配慮についてはここでは割愛しております)。例を読み比べたときに、前者の例文では、終始主観のみで論述されているのに対し、後者は“主治医から就労可能”という客観的な視点も盛り込まれていることで、より説得力のある論述となります。また、過去の状態と現在の状態を対比させた論述形式をとることで、現在の状態がより明確且つポジティブに読み手に伝える効果が期待できます。さらには、過去～現在までを時系列で記述していくかたちが基本となりますが、読み手に入る情報の順番として【ポジティブ情報(主治医も認めている)→ネガティブ情報(発症時の状態)→ポジティブ情報(訓練成果)】という文章構成にすることで、読み手にはポジティブ情報が印象として残りやすくなります。これは、初頭効果と親近性効果という心理学的テクニックを用いた文章構成と言えます。